

湖北

長浜市生まれの美術家、河瀬昇さん（73）は東京都文京区Ⅱが、同市に曳山まつりを描いた油絵「夕暮れの山車」



呈（贈）を（品）作（に）昇（長）市（井）河（藤）す

と「旧開智学校」の2点を寄贈した。サイズは20号。昨年、市内で個展を開いた際、鑑賞した藤井勇治市長に絵を気に入ってもらったことから贈呈を思い立ったという。

「夕暮れの山車」は2019年作。曳山まつりの際、夕焼けで風景が赤く染まる中で御旅所に向かう常磐山（ときわさん）の山車を描いた。「旧開智学校」は18年作。閉校される以前の活気のある様子を

想像しながら絵筆を走らせたという。それぞれ作品を描いた際の感想をパネルで添えている。

河瀬さんは「選りすぐりの作品を持つてきました。曳山まつりは心が一つになります。心だけはいくら密になってもいい」と祭りへの思いを話していた。

絵画は市長応接室に飾られ、市民が目にする機会も設けるという。

【長浜通信部・長谷川隆広】

長浜
曳山まつりの油絵
市に寄贈

遊ぶ心のあるマスク
エチケットマスク



谷口印刷が開発したエチケットマスク「話してマスク」

「おしゃべり中♡」と遊び心も。紙を薄くしつつ、手に持った時に折れないようにする強度のバランスに苦心したという。

3月末に観光協会を通じて市内のホテルやレストランなど要望があった19事業者に無料で100枚ずつ配布。100枚2200円で販売もしている。

同社の立花丈太郎社長（56）は「コロナで飲食店の客が減っている。飛沫を完全に防げるわけではないが、少しでも軽減し、多くの人が食事に出かけやすくなるようにしたい」と話していた。

【長浜通信部・長谷川隆広】

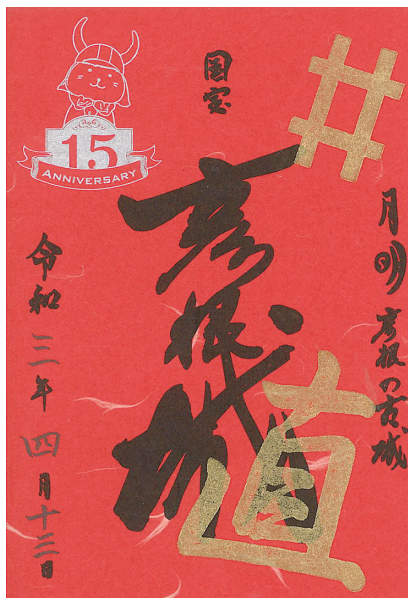
湖東

彦根

「ひこにゃん」15周年の記念符

彦根城運営管理センター（彦根市金亀町）は、2種類の入城記念符（縦15センチ、横10・5センチ）を発売した。一つは、ゆるキャラ「ひこにゃん」誕生15周年を記念したもの。旧彦根藩の軍装「井伊の赤備え」をイメージし、朱色に塗られている。左肩には銀色のひこにゃんが浮かび、井伊家の旗印の井桁マークなども押されている。価格は500円。

もう一つは、太鼓門櫓（重要文化財）公開再開の記念符。



「ひこにゃん」誕生15周年の記念符

この櫓は本丸表門にあり、かつては城内合図の太鼓が置かれた。敷居の損傷のため2017年7月から公開を中止していたが、入り口にスロープを設け内部を見学できるようになった。黄色の台紙に青い橘紋が押されており、価格は300円。いずれも現地のみで販売。問い合わせ先は同センター（0749・22・2742）。

【彦根通信部・伊藤信司】

彦根
井伊家に伝わる書展
近代文書

彦根城博物館（彦根市金亀町）は特集展示「井伊家と近代彦根」を6月14日まで開催している。同館は2016〜20年度、井伊家に伝わる廃藩置県以降の近代文書（1万8306点）を調査。今回はその成果を紹介している。大名道具が並ぶ常設展示も併せて鑑賞できる。一般500円、小中学生250円（彦根城とのセット料金はそれぞれ1200円、3500円）。

井伊家14代直憲（なおのり、1848〜1902年）の肖像画は石版刷りで展示されている井伊家14代直憲の肖像画



縦114・3センチ、横52センチ。華族の礼装であるフロックコートを着用している。県内に在住していた画家、井上菜亭が明治中期以降に描いたとみられる。このほか、直憲が彦根共立学校（彦根東高の前身）設立に動いた際の書簡、15代直忠が東京から彦根に帰省した時の記録などが展示されている。【彦根通信部・伊藤信司】